

Title	ナチスの人種観
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.4 (1933. 12) ,p.18(598)- 18(598)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19331200-0018

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ナチスの人種觀

八〇〇年カール大帝によつてドイツの地に建設せられた第一帝國は一千餘の命脈を保つて一八〇六年ナポレオンによつて最後の引導を渡された。次いで一八七一年獨佛戰爭中フランスに於て宣言せられた第二帝國は大戦後の十一月革命に華かなりし四十八年の短生涯を終つたが、今や理想の第三帝國は本年一月三十日首相の印綬を帯びたヒットラー氏によつて實現せられんとしつゝある。

(因に、共和國成立當時十八州であつたドイツは舊に *Waldock* をプロシヤに合併して一州を減じたが、今や一七〇一年以來久しく分離してゐた *Mecklenburg-Schwerin* と *Mecklenburg-Strelitz* とを合併して一九三四年一月一日から單に *Mecklenburg* と稱する筈である。かくてドイツは十六州に減することになつた。)

ヒ氏就任以來、ナチスの内外に於ける諸般の大膽なる改革振りは世人を驚嘆せしめつゝあるが、近着ロンドン・タイムス週刊所報ベリン通信中、最近我國に於ける一部論者の思想と餘りにも酷似せる一節がある。左に之を拔萃しよう。

教育界の新社會に對する關係は今や周到に定められてゐる。教授は最早や單なる知識の切賣をなすべきでない。その學生を指導し、感動せしめなくてはならない。勞働陣營や『野外教練』から開放せられて元氣よき青年學生は、その思想と體力がドイツ人種たるに價しない人によつて接觸さるべきでない。教授志望者はその成績如何によつて成功の機會が擱まれる勞働陣營に入るべきである。學校に於ても亦た新理想と新方法があるべきで、學問ではなく品性が、特殊知識ではなく綜合的文化が要求せられる。歴史はドイツ人原初の文化的功業、ドイツの『地理的運命』、プロシヤの勃興と世界大戦に重きを置いて、新しい仕方で教えられるべきである。兒童はヴェルサイユ條約の適切なる條項を研究して、その國民に十分の餘地なきことを知り、且つ最後に人種學と生物學を研究して、種族的純潔の重要性と出生率増加の必要を知るべきであると。

種々の姿でドイツの知識界は人種に關する教育に壓倒せられてゐる。人種觀は自由なる個人觀の最も具體的包括的なる對極であるとして重んぜられてゐる様である。最近一新開紙の記せる如く、

こゝには今や人類の歴史ではなく、人種の歴史あるのみである。一個人の時期 (The I Period) は熄んで、我等の時期 (The We period) となりつゝある。個人はそが人種といふ大なる連鎖の一環に過ぎないことを知らねばならぬと。(間崎万里)